

**株式会社アドバンテスト
決算説明会**

2012年1月27日
代表取締役 兼 執行役員社長 松野 晴夫

2011年度 第3四半期決算概要

業績の概要

ADVANTEST.

	2011年度					
	1Q	2Q	3Q		1-3Q累計	
			実績	前期比 (%)	実績	前年同期比 (%)
(単位: 億円)						
受注高	384	276	259	-6.1	919	21.8
売上高	268	377	307	-18.4	952	22.7
売上原価	137	205	173	-15.3	515	27.6
売上総利益	131	172	134	-22.0	437	17.4
営業利益	8	-31	-30	-	-53	-
営業外収支	-4	-20	-4	-	-28	-
税引前純利益	4	-51	-34	-	-81	-
当期純利益	3	-48	-32	-	-77	-
営業利益 (統合関連費用を含まない)	16	10	-5	-	21	-65.4
受注残	412	400	352	-12.0	352	93.7

3

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2012/1/27

- 当第3四半期 および 第3四半期累計期間の業績概要
- 当第3四半期は、
 - ・受注高 259億円 前期比6%減少
MPU向けの受注が減少したほか、顧客各社の生産調整、新規投資抑制が続いた
 - ・売上高 307億円 前期比18%減少
MPU向け、メモリ向けの売上が減少
 - ・利益面は、
 - ・営業損失 30億円
 - ・税引前純損失 34億円
 - ・当期純損失 32億円
 - ・当第3四半期のVerigy社統合関連費用は、25億円
統合関連費用を含まないベースでは 営業損失 5億円
 - ・受注残 352億円 うちVerigyの構成比は約30%
- 第3四半期累計期間では、
 - ・受注 919億円 前年同期比22%増加
 - ・売上 952億円 前年同期比23%増加
 Verigy連結効果を除いても、前年同期並みの水準を維持

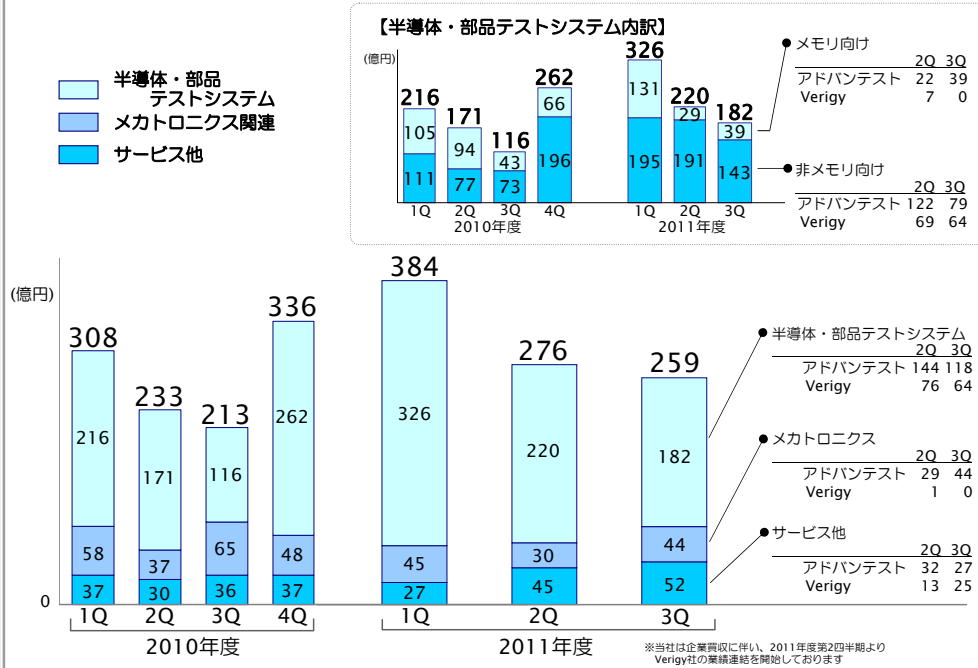
(参考)業績概要 ※Verigy 及び 統合関連費用含まず **ADVANTEST**

(単位: 億円)

	2010年度				2011年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	前期比 (%)
受注高	308	233	213	336	384	186	170	-8.8
売上高	235	286	254	221	268	302	220	-26.8
売上原価	119	149	135	108	137	153	119	-22.0
売上総利益	116	137	119	113	131	149	101	-31.7
営業利益	18	29	12	2	16	15	-9	-
受注残	276	223	182	296	412	297	247	-17.1

受注高 事業セグメント別

ADVANTEST



○ 2011年度第3四半期の事業セグメント別受注高

- 半導体・部品テストシステム事業
 - ・前期比17%減 182億円
 - ・うちVerigyの貢献額 64億円

(主な減少要因)

- ・非メモリ・テスト
 - ・MPU向け「T2000」受注が減少、および半導体メーカーでの稼働率が全体的に低水準
- ・メモリ・テスト
 - ・パソコン需要の停滞によるDRAM価格低下を受け、多くのメモリメーカーで新規設備投資を抑制中

- メカトロニクス関連事業
 - ・前期比45%増 44億円

(主な増加要因)

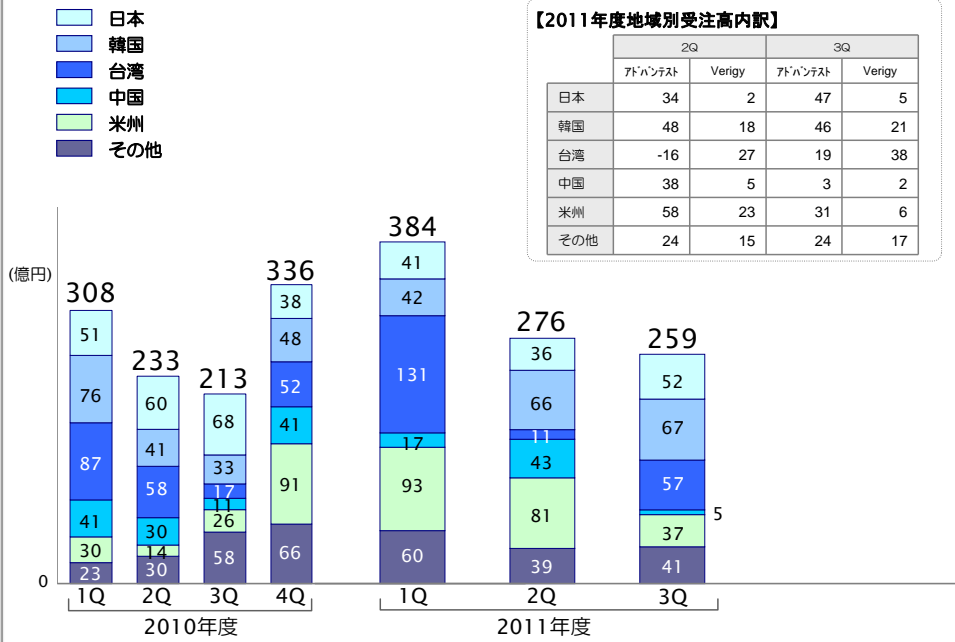
- ・SoCハンドラ受注が増加

- サービスその他事業
 - ・前期比15%増 52億円

(主な増加要因)

- ・サービス契約の季節性要因での増加

受注高 地域(出荷先)別

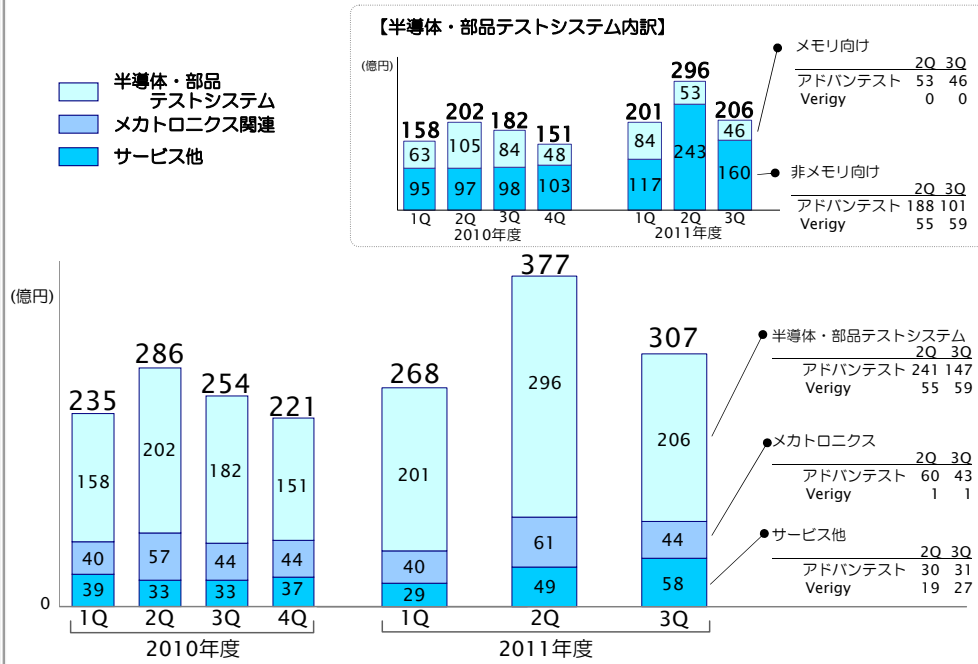


○ 2011年度第3四半期の地域別受注高

- ・台湾
 - ・前期比約5倍 57億円
 - (増加要因)
 - ・通信用半導体向けが伸びたことと、前期はメモリ・テストの受注キャンセルがあった
- ・日本
 - ・前期比45%増 52億円
 - (増加要因)
 - ・マイコン向けで「T2000」が増加
- ・中国
 - ・前期比88%減 5億円
 - (減少要因)
 - ・メモリテスト、非メモリテストともに減少
- ・米州
 - ・前期比55%減 37億円
 - (減少要因)
 - ・MPU向け「T2000」受注が減少

売上高 事業セグメント別

ADVANTEST



○ 2011年度第3四半期の事業セグメント別売上高

○ 半導体・部品テストシステム事業
 ・前期比30%減 206億円

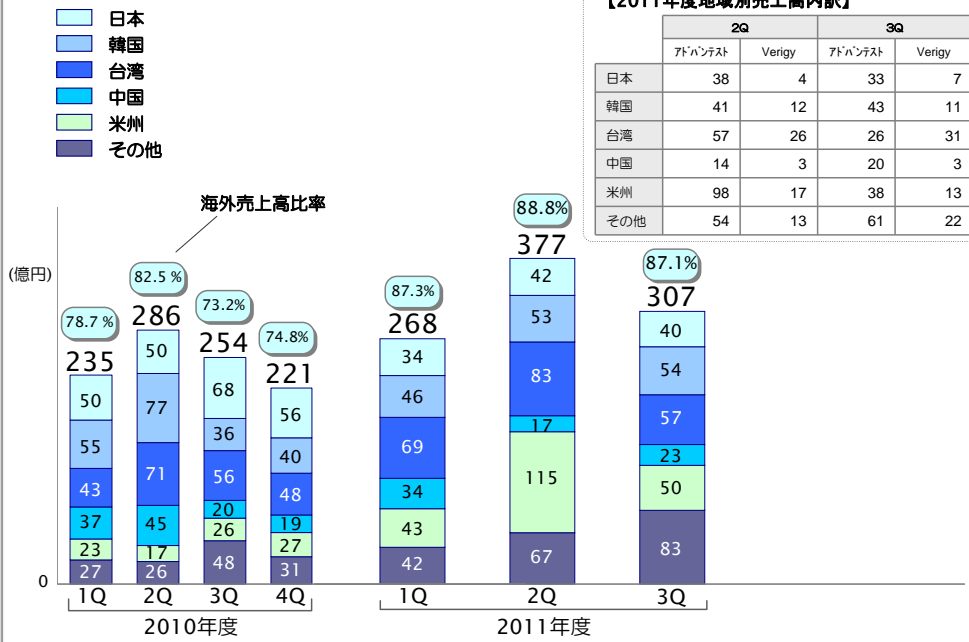
(主な減少要因)
 ・非メモリ・テスト
 ・MPU向け「T2000」が減少

○ メカトロニクス関連事業
 ・前期比26%減 44億円

(主な減少要因)
 ・全体的な投資抑制の影響を受けた

○ サービスその他事業
 ・前期比21%増 58億円

売上高 地域(出荷先)別

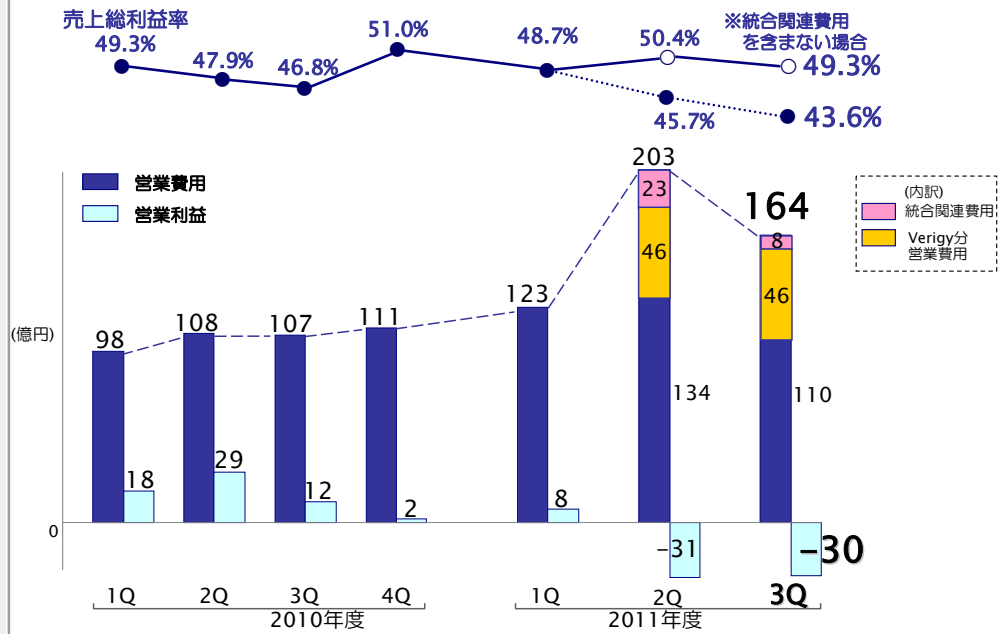


○ 2011年度第3四半期の地域別売上高

- ・台湾と米州で落ち込み
- ・米州
 - ・前期比56%減 50億円
 - (減少要因)
 - ・MPU向け「T2000」が減少
- ・台湾
 - ・前期比31%減 57億円
 - (減少要因)
 - ・メモリ・テストの売上減少

営業利益/売上総利益率/営業費用

ADVANTEST

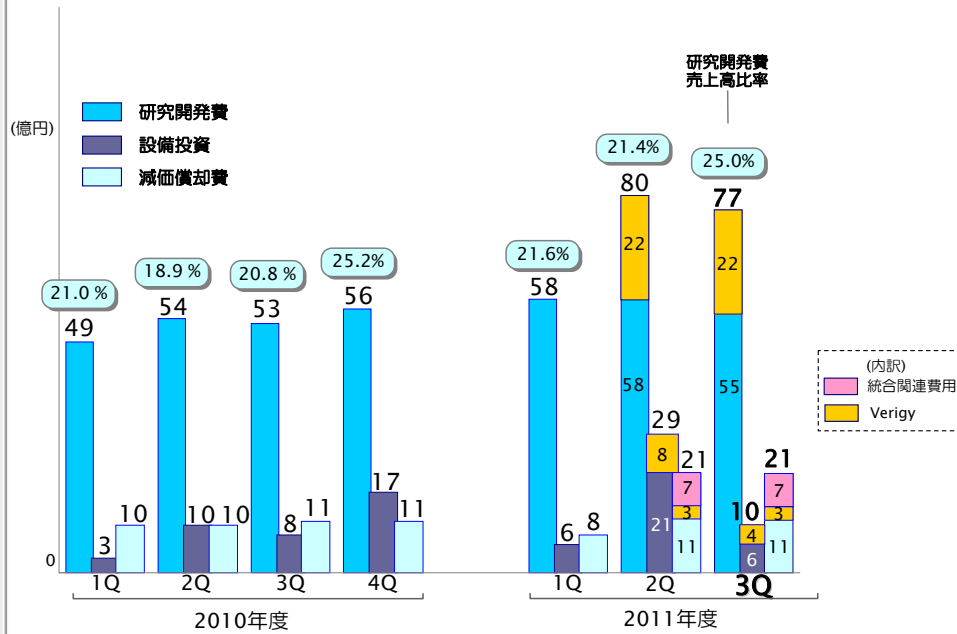


○ 2011年度第3四半期の営業損益について

- ・ 売上総利益率 43.6%
 - ・ 統合関連費用を含まないベースでの売上総利益率 49.3%
- ・ 営業費用 164億円
 - ・ うち統合関連費用 8億
 - ・ Verigyの営業費用 46億
- ・ 営業損失 30億円

研究開発費/設備投資/減価償却費

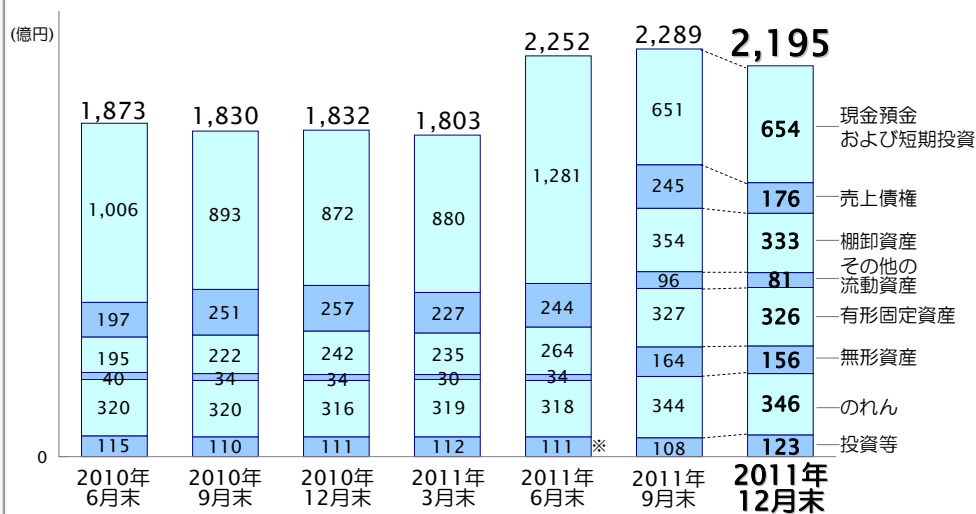
ADVANTEST.



- 研究開発費
 - ・前期比4%減 77億円
 - ・うちVerigyの研究開発費 22億円
- 設備投資
 - ・10億円
- 減価償却費
 - ・21億円
 - ・統合関係費用として、無形資産償却費 7億円を含む

バランス・シート <資産の部>

ADVANTEST.

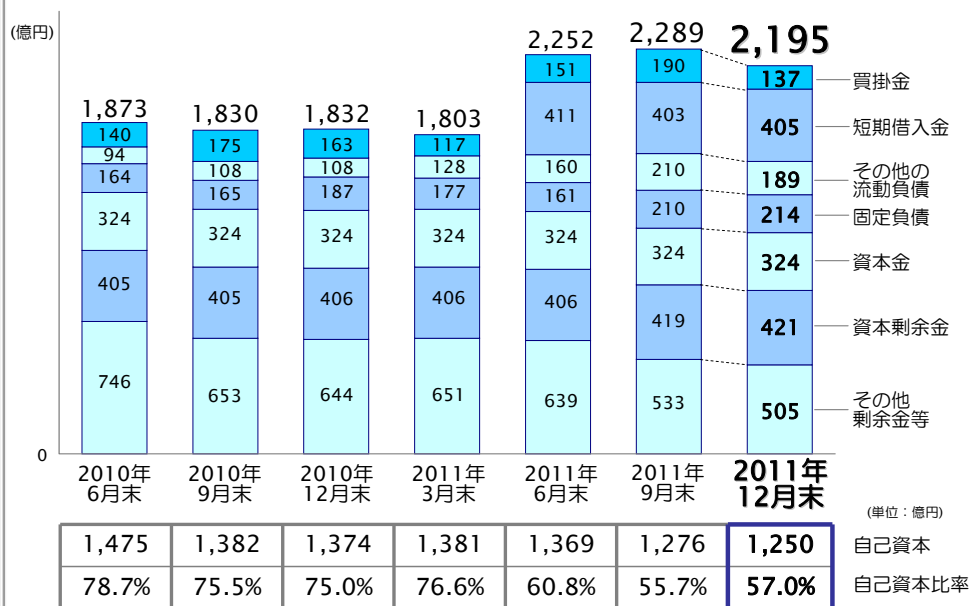


※2011年6月末時点データより以前は、有形固定資産を除いた固定資産の合計を「投資等」として表現しております

- 2011年12月末時点のバランス・シート
- 資産の部
 - ・現金預金および短期投資
2011年9月末比 2億円増 654億円
 - ・棚卸資産は、
2011年9月末比 21億円減 333億円
 - ・2011年12月末時点で、
無形資産 156億円
のれん 346億円
- これらの結果、総資産は、
前期末から94億円減の 2,195億円

バランス・シート <負債・資本の部>

ADVANTEST.



○ 負債・資本の部

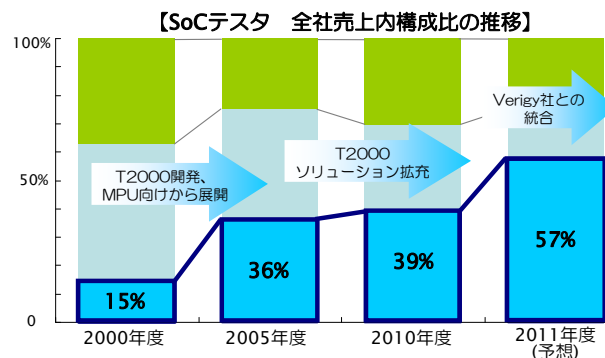
- ・ 自己資本 1,250億円
- ・ 自己資本比率は
前期から1.3ポイント増 57.0%

2011年度 事業アップデート
“SoCへの事業構造転換完了”

- 引き続き、第4四半期以降の事業の見通しについて説明いたします

◆全体

- ・ 米国、韓国の手大半導体メーカーから需要回復の兆し
- ・ 非メモリ・テストのシェア強化策が実る
- ・ 脱DRAM、SoCビジネスへの構造転換が完了



○ 今後の事業の見通し

- ・ 消費者需要の鈍化の影響を受け、一部の大手顧客を除き、テスト投資に慎重な顧客が多い。
特にPC用DRAM向けのテストは、デバイス価格の長い低迷で厳しい状況にある。
非メモリ半導体についても、最終製品需要の伸び悩みで顧客の稼働率が全体としてはなかなか向上していない
- ・ しかし、スマートフォンやタブレット端末に搭載される半導体向けのテストの引き合いが、アメリカ、韓国の手大通信半導体メーカーから来るなど、受注環境に回復の兆しが出てきた
- ・ その背景には、非メモリ・テストのシェア強化施策が実りつつあることが挙げられる。
当社の推定値では、2011年末時点で、非メモリ・テストのシェアは約50%にまで伸びた模様。
DRAMからSoCに今後の事業の中核を移す、構造転換が完了した
- ・ また、テラヘルツ波技術を用いた解析サービスや、これまで内製部品として使用してきたMEMSリレーの外販を来年度よりスタート。
新規事業の育成もたゆまず積極展開を図りさらなる経営安定化を目指す

◆非メモリ・テスト市場

- ・ Verigy社製品が強みを持つ、
通信用半導体市場の伸びに期待
- ・ 高機能化、多機能化が加速中の
MPUやAP向けでも需要拡大に期待
- ・ イメージセンサ向けソリューションが引合い好調、
パワー半導体向けソリューションは、国内外の
重要顧客での採用が進む

◆メモリ・テスト市場

- ・ モバイルDRAMの高速化進展を背景とする
新規投資が需要の主軸へ
- ・ 高速NANDフラッシュ向け「T5773」も堅調な見込み

○ 今後のテスト市場の見通し

- ・ 非メモリ・テストシステム市場では、
スマートフォンなどの通信端末の需要拡大に牽引され、
Verigy社製品が強い、通信用半導体向けの需要の伸びが期待される
- ・ MPUやAPでも、今後の需要上昇に期待が持てる。
特にスマートフォンやタブレット端末に搭載されるAPは、
当面のテスト需要の中心となる見通し
- ・ 非メモリ・テストシステムでの新規開拓分野として、
イメージセンサ向けソリューションが引き合い好調。
パワー半導体向けも国内外の重要顧客での採用が進む見通し
- ・ メモリ・テストシステム市場では、
高速化が進むモバイルDRAM向けが、当面の需要の主軸となる見通し
- ・ 昨年発表した、NANDフラッシュメモリ用「T5773」も
NANDフラッシュメモリの高速化進展を背景に
堅調な需要が今後も見込まれる

シナジー創出に向けた基盤整備

- ・ ビジネスの機動力強化を図るため
2012年4月に海外関係子会社の組織再編を予定。
原則1地域に1統括会社化、
並行して各地域の事業拠点を順次集約
- ・ 営業やS Eの人員再配置を既に開始済み
- ・ アドバンテストとVerigy社の技術長所を融合、
圧倒的優位性を持つ新製品の開発に着手
- ・ 原価低減に向け、部品共通化などの取り組みを加速

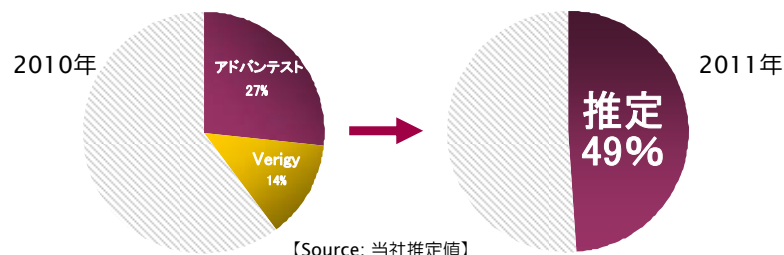
○ Verigy社との統合進捗について

- ・ 将来のシナジーをより大きく生むため、基盤整備を中心に進めている
- ・ 現在Verigy社の位置づけは当社の100%子会社という位置付け。
これを来年度より、組織的に一体化する。
2012年4月より、原則1地域に1統括会社という形に再編し
各地域のビジネスの機動力を強化。
事業拠点も順次、集約を進める
- ・ 組織の再編成を待たず、営業やS Eのリソースの調整といった
実質的な融合は既に開始済み
- ・ 開発体制では、重複していた開発テーマの整理、
Time to Marketを実現するための開発プロセスの統合などを既に実施。
両社の技術長所を融合した、圧倒的優位性を持つ新製品の開発もスタート
- ・ 利益率向上施策としては、部品共通化などの取り組みを加速中。
さらなる原価率向上を目指す

統合関連費用について

- ・ 統合関連費用
第3四半期に25億円を計上
第4四半期は 9億円予定、通期合計83億円見込み
- ・ 当期末において、のれん減損は現状見込まず

テスタ市場推定シェア ※2011年(暦年)ベース



All Rights Reserved - Advantest Corporation

2012/1/27

○ 引き続きVerigy社との統合進捗について

- ・ 統合関連費用は、第3四半期に25億円を計上、第4四半期は9億円を予定。通期の統合関連費用は83億円となる見通し
- ・ 今年度、のれん減損は現状見込んでいない
- ・ テスタ市場全体でのシェアは、当社推定値ベースで2011年末時点で約49%へと、大きく伸ばすことができた。今後も両社の力を合わせ、大きく伸ばしていく

2011年度業績予想

ADVANTEST.

年間配当を15円へ増配予定

	2010年度	2011年度			
		1-3Q累計	4Q(予想)	通期(予想)	前年度比(%)
(単位: 億円)					
受注高	1,090	919	331	1,250	14.7
売上高	996	952	428	1,380	38.5
営業利益	61	-53	63	10	-83.6
当期純利益	32	-77	67	-10	-
営業利益 (統合関連費用を含まない)	61	21	72	93	52.5
受注残	296	352	255	255	-14.1

- 2011年度第4四半期の予想
 - ・受注高 331億円
 - ・売上高 428億円
 - ・営業利益 63億円
 - ・当期純利益 67億円

- その結果、
2011年度通期の業績予想
 - ・受注高 1,250億円
前年度比 14.7%増
 - ・売上高 1,380億円
前年度比 38.5%増
 - ・営業利益 10億円
前年度比 83.6%減
 - ・当期純損失 10億円
前年度に比べ42億円悪化

- 業容拡大に伴い、2011年度の年間配当を15円へ増配する予定

- 来年度以降も、中期的な経営目標として掲げた
 - 「売上高2,500億円」
 - 「営業利益率20%以上」
 - 「テスト・ハンドラの合計シェア50%以上」
 の2014年度での達成に向けて邁進する

ご注意

- ◆ 当社は米国会計基準を採用しております。
- ◆ 将来の見通しに関する記述について
本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているもの又は暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されています。